

広瀬研だより ちよつとトリビアな無脊椎動物の話

Text = Rie Nakano
Photo = Rie Nakano

第21回 学会発表 癖になる



いずれも World Congress of Malacology で撮影したもの。大会参加者は334人。(01) 大会会場入口に設置された高さ1mのカタツムリのオブジェ2体。気合いの入りようが伺える。(02) Dr.Terry Goslinerの口頭発表。口頭発表ではパワーポイントを用いるのが今や常識。発表時間は大会によって異なるが、今回は質疑応答の時間も含めて1人20分。(03) 学会主催のエクスカーション。自分とはあまり関係のない分野の研究者と知り合える機会でもある。写真は見学ツアーの行われたブーケットマリニサーチセンター。(04) 最終日は大パーティーが開催された。舞台ではタイのダンスなどが繰り広げられ、最後には懐かしいディスコ音楽がかかって舞台は踊りまくる研究者であふれた。(05) ポスター発表者は自分のポスターの前に立ち、話を聞いてくれる人を待ち受ける。どんな質問が飛んでくるかわからないので緊張する。写真01,02,03,04=中野理枝

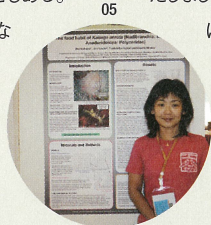
学 生だろうが教授だろうが、研究者であるなら研究発表をしないわけにはいきません。いくら実験や観察を重ねても、結果を誰にも知らせなければ、その研究は存在しないと同等だ。そこで、歌手がコンサートホールで歌を歌うように、ダイビングガイドがゲストを連れて潜るように、研究者は自分の研究を発表する。

研究発表には主に2通りある。1つは論文を書いて学会の発行する学会誌や学術論文誌に投稿することだが、ここでは2つめの、学会などの公開の場での発表について書きます。

そ もそも学会とは何だろう。ウィキペディアによると「学問や研究の従事者が、自己の研究成果を公開発表し、その科学的妥当性をオープンな場で検討議論する場」。さらに「査読、研究発表会、講演会、学会誌、学術論文誌などの研究成果の発表の場を提供する業務や、研究者同士の交流などの役目も果たす機関でもある」ともある。

研究発表会や講演会などが行われる学会主催のオープンな場のことを大会というが、大会そのものを学会と呼ぶこともある。同様に、大会でパワーポイント/ポスターを用いて口頭/ポスター発表することを「学会発表」と呼ぶこともある。「日本**学会の大会で発表する」ではなく「日本**学会で発表する」と言うことでですね。

その学会で、口頭発表とポスター



発表のどちらを行うかはケースバイケース。それよりも重要なのは、どの学会で発表するかだ。

ウ ミウシの場合で考えてみよう。ウミウシは動物なので日本動物学会がまず考えられる。軟体動物の巻き貝の仲間なので日本貝類学会もよさそうだ。海底にいる動物なので日本ベントス学会もありだろう。ウミウシの行動を研究しているなら日本動物行動学会や日本生態学会がいいかもしれない。未記載種のウミウシを発見したら、前述の貝類学会でもいいけど日本分類学会でもいいね。という具合に、材料から捜せし、その材料にどんなアプローチをしているかで捜すこともできる。あとは学会の会員数や雰囲気、学会誌に掲載されている論文の傾向などを調べて、自分の研究に興味を持ってくれそうな研究者が集まりそうな学会を見つける。しかし学会の数は多く、自分にぴったり!を見つけるのは難しい。学生ならば自分の先生が参加している学会に、とりあえずついていく手もある。

そ して私も進学4年目の今夏、ブーケットで開催されたWorld Congress of Malacology(日本語に訳すと「世界軟体動物学会議」)において、ようやく学会デビューを果たしました。いきなり国際学会だったのは、国外にはウミウシ研究者が大勢いるから。案の定、餅は餅屋で、今までどうしてもわからなかったことをさっと教えてもらえたり、自分の研究に足りない点を指摘さ

れたりした。会いたいと思っていた人たちと会えて、情報交換も行えた。有意義で楽しい1週間だった。あまりに楽しかったのでまた行きたくなった。学会発表って癖になります。

ただし学会発表で、しゃべっただけでは後に何も残らない(講演録が残る場合もありますが)。大会は発表をしてアドバイスをもらう場所、多くの研究者と知り合う場所だ。得たアドバイスを糧に結果を出して論文を書き、投稿して受理されて、ようやくその研究はコンプリートだ。

な お学会の大会には、研究者でなくても参加できる。会員であれば発表もできる(飛び入り発表はできません)。たとえば日本サンゴ礁学会ではサンゴの移植について、多くの企業やNPO法人、ダイビングサービスや漁協が各々の研究を発表している。発表を聞きに行けば研究の最前線に触れることができるし、公開シンポジウムやワークショップが無料で開催されることもある。ダイバーならサンゴ礁学会の他に魚類学会、甲殻類学会、貝類学会、藻類学会あたりがお勧め。難しそうと敬遠しないで、まずは参加してみても?

上) 学会会場で配られる要旨集には、その学会で発表されるほぼ全ての口頭発表とポスター発表の要旨が掲載されている。発表日時や会場案内図も掲載されているので開催中はガイドブックとしても必携。重いのだが……。最近はずりずりでCDで配布されることも。下) さまざまな学会の発行する学術論文誌。投稿された論文は匿名の審査員(関連する分野の研究者)に審査され、受理されて(「OK!」)と返事がきて)ようやく印刷。受理される前に審査員から書き直しを命じられることもあるし「こんな全然ダメ」と却下されることもある。学会誌掲載への道は厳しい! 写真=中野理枝



文=中野理枝

Profile>>'87年OW取得。'96年頃ウミウシに開眼。'04年「沖縄のウミウシ」を編集、同年「本州のウミウシ」を編集・執筆。理学修士。'09年4月、琉球大学大学院理工学研究科博士後期課程に進学。雑誌・書籍の編集や執筆の仕事が続けながら広瀬研究室にてウミウシ研究に励む。この連載の単行本化が決まり、不安に書かされている。

→hofukutei.exblog.jp

監修=広瀬裕一

琉球大学理学部海洋自然科学科教授・理学博士

Profile>>'91年理学博士取得。その後3つの大学を転々として、'97年より琉球大学に勤務。来年1月に「サンゴに覆いかぶさる黒い海綿の研究集会」が台湾で企画されているので参加する予定。これも学会のようなものです。

→www.geocities.jp/lissoclinum/TunicataJ